

児童養護にもっと光を当てよう

社会福祉提言委員会

社会福祉の内部に大きな格差がある。高齢者福祉のように人数も多く、年金や医療、福祉の予算規模の大きな分野は、政治的にも注目されるし、なによりも当事者が選挙民として発言できるので、たえずマスコミのとりあげるところとなり政治問題化する。障害者福祉も当事者と保護者が大きな役割をになって社会的に運動を展開する。こうした背景で、これらの分野では予算措置はそれなりに前進をする。

ところが児童福祉、特に乳児院や児童養護施設に保護されている児童家庭の問題は、本人はもちろん家族も社会的に発言することはほとんどないので、その問題は社会から無視されつづける。戦後半世紀以上を経ているのに、まだ敗戦直後のような状態が放置されていて愕然とする。

例えば、最近私が理事を引き受けたある児童養護施設は、定員60名であるが、夜勤の勤務は幼児から中学・高校生までの児童30名に1名の保育士であるという。思春期の難しい問題を背負って入所してきた子供たち30名を1名の職員でどう対処するのだろうか。数十年前の配置基準がそのままになっている。

昨年末、理事を引き受けたのでまず施設を見せてもらいに行きびっくり仰天をした。施設は昭和27年に設置された当時のまま荒れ果てて老朽化が激しく、子供たちの4人部屋は寒々として、なかにはスプレーペンキで大きな落書きがしてある部屋もある。ここまで放置してある社会福祉法人というのは、いったいどういうことかと考えこんでしまう。

これほどひどい状態の児童施設がまだあったのかとびっくりしていたら、同僚に県内にはもっとひどい施設があるといわれた。さらに調べたら全国には老朽施設がたくさん存在するといわれてわが身の不勉強を恥じた。例えば、下泉秀夫氏の「老朽化する児童養護施設－施設調査から」2004年によれば、全国の児童養護施設の51%は、いまでも大舎制をとっており、すべての中学生、高校生に個室を確保できている施設はわずか19%である。

トイレは、17%の施設が男女共同である。

浴室は、43%が男女共用。

居住用の建物は、1960年代の建築が27%、1970年代が35%、1980年代が16%で、全体に非常に老朽化している。

自由記述を読むと、入所児童の多くが被虐待児童であり、小児精神科を受診しているものも多く、プライバシーというよりも興奮時にクールダウンさせる個室は必須であるが、その部屋がなくて苦労している。

子供がひとりで泣きたいときに泣ける部屋がほしい。

高校生が、受験勉強をできる個室をぜひ確保してあげたい。

児童1名当たり3.3㎡の基準では、個室の確保はできない。

いまから40数年前、私は都内の少舎制の児童養護施設で社会福祉実習を経験した。それは当時のホスピタリズム論争をふまえて、児童養護がコテージシステムに展開をしていたからである。その後街のなかにグループホームを展開する施設も現れた。そとから半世紀近くもたつて、いまだに足踏みしているというのはどういうことだろう。監査で実態を承知しながら児童を措置しつづけている行政にもあまりの無責任ぶりに怒りを覚える。日本の社会福祉はほんとうにこれでいいのか。

